

(様式 1)

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

30年 6月 27日

①事業者名	公益財団法人 日本数学検定協会					
②測定ツール名	実用数学技能検定 準2級					
③主な対象者	数学Ⅰ及び数学Aを学修した者					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
		○				○
⑥申請する測定ツールの目的・概要	数学Ⅰ、数学Aの定着度合いを診断することを目的として、義務教育段階（中学校第3学年）の数学を含めて、基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生から3年生までを主な対象とし、知識・技能を活用する力と思考力・判断力・表現力を測定します。					
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	実用数学技能検定（数学検定）準2級は、1次：計算技能検定と2次：数理技能検定で構成されています。2次：数理技能検定ではおよそ半数の問題が記述式となっています。日常生活や社会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱った問題も出題されます。年間の実施回数が17回程度設定されているため、実施しやすくなっています。個別成績票と団体成績表が充実しており、高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進し、高等学校の質の確保・向上に資する検定となっています。					
⑧実施期間、年間実施回数	年間17回程度実施					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	P B T					
⑩試験時間(分)	国語	数学		英語		
		1次：計算技能検定 60分 2次：数理技能検定 90分				
⑪受検料	3,500円（税込み） なお、2019年4月以降のお申し込み分（6月検定）から 3,700円（税込み）					
⑫標準返却期間	マイページでの合否確認（電子媒体）は、検定日から約3週間後 検定結果（紙媒体）の到着は、検定日から約30日後					
⑬URL(事業者のHP における測定ツール 紹介)	http://www.su-gaku.net/					

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名:実用数学技能検定 準2級

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

①主な対象者

数学Ⅰ及び数学Aを学修した者

②測定しようとする資質・能力

ア. 数学Ⅰ

「数と式」に関する資質・能力、「図形と計量」に関する資質・能力、「二次関数」に関する資質・能力、「データの分析」に関する資質・能力

イ. 数学A

「場合の数と確率」に関する資質・能力、「整数の性質」に関する資質・能力、「図形の性質」に関する資質・能力

ウ. 義務教育段階の数学

「数と式」に関する資質・能力、「図形」に関する資質・能力、「関数」に関する資質・能力

③出題範囲

数学Ⅰを中心として、数学A及び義務教育段階の数学

④主として知識・技能を問う問題と主として思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題方針

ア. 主として知識・技能を問う問題の出題方針

身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて出題します。

イ. 主として思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題方針

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などをみる問題を出題します。

⑤学習指導要領との対応

出題範囲である数学Ⅰ、数学A及び義務教育段階の数学に関して、学習指導要領に対応した問題を出題します。

⑥出題形式

実用数学技能検定(以下「数学検定」という)は、1次:計算技能検定と2次:数理技能検定で構成されています。出題形式はそれぞれ次のようになります。

ア. 1次:計算技能検定

短答式

イ. 2次:数理技能検定

短答式及び記述式

⑦難易度

ア. 1次:計算技能検定

教科書の基礎的な問題を出題します。

イ. 2次:数理技能検定

教科書の基礎的な問題と練習問題程度の問題を出題します。

⑧その他出題に関する事項

2次:数理技能検定では、日常生活や社会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱った問題等(以下、「特有問題」という)を全問題数の10%程度出題します。

(2)構成等

①出題形式

ア. 1次:計算技能検定

出題する問題(小問 15 問)は、すべて短答式です。

イ. 2次:数理技能検定

出題する問題(小問 10 問)は、短答式及び記述式です。

小問 10 問のうち5問ないし6問を記述式とし、他を短答式とします。

②出題範囲

出題範囲は、おおそ数学Ⅰ・数学Aから50%、中学校第3学年の数学から40%、その他10%となっています。「数と式」、「図形」、「関数」、「データの分析」のバランスを考え出題しています。

(3)難易度設定の考え方・方法

当協会の創設以来過去30年間の問題の正答率のデータから算出して、問題の難易度を設定し、検定問題を構成しています。当協会の記述式問題は途中まで正しく記述されていれば部分点を与えています。

1次:計算技能検定の合格基準は、全問題の70%以上の正答となっており、準2級では15問中10.5問です。なお、小問2問は、それぞれ2問に細分割されているため、0.5問の正答が存在します。

また、2次:数理技能検定の合格基準は、全問題の60%以上の正答となっており、準2級では10問中6問です。なお、短答式問題でも解答形式によって部分点が発生することがあります。

1次:計算技能検定と2次:数理技能検定ともに合格した者が、準2級の検定合格となります。

過去に出題した問題の正答率を参考として問題を構成すると、概ね1次:計算技能検定の合格率は60%~70%、2次:数理技能検定の合格率は40%~50%となり、準2級の検定合格率は40%程度となります。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

1次:計算技能検定、2次:数理技能検定とも、前半は義務教育段階の数学、後半は数学Ⅰ及び数学Aからの出題とし、教科書の標準的な掲載順とほぼ一致するよう体系的に出題しているので、問題に取り組みやすくなっています。また、出題内容も教科書の例題、練習問題程度の基本的なものを多く出題しています。

2次:数理技能検定では、できるだけ日常生活や社会の事象と関連した場面を設定するようにしており、数学の有用性を伝えるよう工夫しています。

(5)その他特長

2次:数理技能検定では、日常生活や社会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱った問題等(特有問題)を全問題数の10%程度出題します。これらの問題は、義務教育段階の数学から数学Ⅰ及び数学Aまでに習得した知識・技能を活用して解答できる内容のものとしています。数学以外の知識を必要とする場合は、必要に応じて説明を加えています。

また、2次:数理技能検定では電卓の使用を認めています。これは思考に十分な時間をかけられるようにするためです。

このほか、作図の問題が出題されることがあります。

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

① 結果提供項目

- ・検定回次、検定実施日、受検階級、受検番号、氏名
- ・受検結果(点数、可否)
- ・小問ごとの成績
- ・評価コメント
- ・問題と解説
- ・書籍などの紹介

② 結果提供の具体的な内容

受検者個人への結果提供は、当該受検者の小問ごとの正誤(部分点を含む)と全受検者の平均、成績に関するコメント等となります。

・受検結果(点数、可否)

1次: 計算技能検定及び2次: 数理技能検定について、それぞれ当該受検者の点数・受検者全体の平均点・合格点、及び当該受検者の可否を表で表示します。

・小問ごとの成績

1次: 計算技能検定及び2次: 数理技能検定の小問ごとに、当該受検者の正誤(または点数)、受検者全体の正答率、単元名を表で表示します。

当該受検者の成績と受検者全体の平均正答率に基づいて、よく理解している内容及び理解が不十分な内容を示します。

出題した問題を内容から「数と式」、「図形」、「関数、確率・統計」に分け、学年・科目から「中学校第3学年」、「数学Ⅰ」、「数学A」に分けて、内容と学年・科目の組合せごとに当該受検者の正答率を求め、帯グラフで表示します。また、内容ごと及び学年・科目ごとの当該受検者の正答率を、数値で表記します。

2次: 数理技能検定の記述式問題について、当該受検者の点数と受検者全体の平均正答率を、小問ごとに帯グラフで表します。

・評価コメント

高得点で合格した受検者に対しては、出題範囲を「十分に理解している」こと、2級受検に向けて取り組むとよい内容などのアドバイスを掲載します。

合格基準をやや上回って合格した受検者に対しては、出題範囲を「おおむね理解している」と、理解が不十分な内容を示し、2級を受検するにあたってのアドバイスを掲載します。

1次のみ合格者、2次のみ合格者を含み準2級に合格できなかった受検者(以下不合格者という。)に対しては、理解している内容、理解が不十分な内容を提示して、準2級を再受検するときに役立つアドバイスを掲載します。

・問題と解説

不合格者には、数学Ⅰを中心に、当該受検者の理解が不十分だった内容の問題を提示します。

合格者には、数学Ⅰを中心に、2級で出題される内容の問題を提示します。

・書籍などの紹介

不合格者には準2級の関連書籍、合格者には2級の関連書籍を紹介するなど、次回の受検に役立つ情報を掲載します。

③ 結果提供の具体的な方法

検定結果は、学校を通じて紙媒体により返却します。

模範解答は、検定実施後ホームページで公開しています。また、実施団体に対して検定結果とともに紙媒体で送付しています。

④ 学習意欲の喚起に資する情報提供の具体的な内容

表やグラフを多用し、習得した内容、課題がある内容を視覚的に分かりやすく提示します。

評価コメントでは、小問の正誤を分析した上で、その内容に照らして「～についてよく理解しています」、「～が不十分でした」と表記します。また、合格者に対して、「好成績で合格しました。ぜひ、2級にも挑戦してください。」と上級をめざすよう激励し、不合格者に対しては、重要な内容を示し、「ぜひ、もう一度挑戦してください。」と合格をめざすよう呼びかけ、学習意欲を喚起します。

問題と解説の掲載及び書籍などの紹介では、当該受検者の成績に応じた情報を掲載することで、不合格者の復習や合格者の挑戦を促し、全受検者に対して受検後の学習を支援します。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

① 結果提供項目

- ・検定回次、検定実施日、受検階級、団体名
- ・受検者個人の成績一覧
- ・団体の受検結果
- ・小問ごとの成績
- ・評価コメント
- ・解答類型と反応率

② 結果提供の具体的な内容

数学検定実施団体への結果提供は、当該団体の受検者個人の成績一覧及び当該団体の平均、平均からみられる傾向、全受検者の平均等となります。

・受検者個人の成績一覧

受検者それぞれの小問ごとの正誤(部分点を含む)を一覧表で表示します。

・団体の受検結果

当該受検団体の受検者数、1次合格者数、2次合格者数、検定合格者数、不合格者数を表で表示し、割合を円グラフで表示します。

1次:計算技能検定及び2次:数理技能検定について、当該受検団体と受検者全体の平均点と合格率それぞれを表で表示します。当該受検団体については、最高点と最低点も表示します。

1次:計算技能検定及び2次:数理技能検定の合格点を表で表示します。

1次:計算技能検定及び2次:数理技能検定について、当該受検団体と受検者全体の点数の分布をグラフなどで表示します。

・小問ごとの正誤

1次:計算技能検定及び2次:数理技能検定の小問ごとに単元名、当該受検団体と受検者全体の平均正答率、無解答率を表で表示します。

当該受検団体と受検者全体の平均正答率に基づいて、よく理解している内容及び理解が不十分な内容を示します。

出題した問題を内容から「数と式」、「図形」、「関数、確率・統計」に分け、学年・科目から「中学校第3学年」、「数学Ⅰ」、「数学A」に分けて、内容と学年・科目の組み合わせごとに当該受検団体の正答率を求め、帯グラフで表示します。また、内容ごと及び学年・科目ごとの当該受検団体の正答率を、数値で表記します。

1次:計算技能検定と2次:数理技能検定で出題した問題を、その形式から「短答式」、「記述式」に分類し、当該受検団体の平均正答率と受検者全体の平均正答率を求め、帯グラフで表示します。

2次:数理技能検定の記述式問題について、問題ごとに当該受検団体と受検者全体の点数の分布をグラフで表示します。

・評価コメント

合格率が高水準だった受検団体に対しては、団体に属する受検者が出題範囲を「よく理解している」こと、授業などで今後扱うとよい内容などを示します。

合格率が中水準だった受検団体に対しては、団体に属する受検者が出題範囲を「おおむね理解している」こと、受検者の理解の不十分さが顕著であった内容を示します。

合格率が低水準だった受検団体に対しては、受検者がよく理解している傾向がみられる内容、受検者の理解の不十分さが顕著であった内容を示します。

また、当該受検団体の問題ごとの平均正答率を全受検団体のそれと比較して習熟度及びその内容の指導のポイントを掲載します。

・解答類型と反応率

検定問題の中から、問題の趣旨や各種調査で指摘されている課題などに照らして注視すべきものを取り上げ、解答類型及び当該受検団体と受検者全体の反応率を示します。また、解答類型の内容や誤答類型の意図などを記載します。

③結果提供の具体的な方法

検定結果は、紙媒体により返却します。また、マイページで合否確認ができ、CSV 形式で合否結果を保存することができます。

④学校としての指導の工夫・充実に資する情報提供の具体的な内容

表やグラフを多用し、習得した内容、課題がある内容を視覚的に分かりやすく提示します。

評価コメントでは、特に課題があった内容について特筆すべき結果を抽出して記載するとともに、その後の学習内容の素地の形成としての要点、協働的な学習指導の重要性、発展的な扱いの可能性などについて具体的に記載します。

解答類型と反応率では、「【解答類型1】の中には、～を～した生徒がいると考えられる。」などと記載し、解答類型の意図や受検者のつまずきの予想を示すことで、受検後の学習指導に寄与します。

(3)試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

問題の内容は、ほぼ学習指導要領に準拠したものになっています。

小問の配点はすべて1点で、1次:計算技能検定の合格基準は全問題の70%以上の正答となっており、準2級では15点中10.5点です。また、2次:数理技能検定の合格基準は全問題の60%以上の正答となっており、10点中6点です。

・正答率の算出

小問の配点はすべて1点で、部分点があるものは0.2点刻みや0.3点刻みなどの段階を設けています。ある小問について、受検者の点数の平均をその小問の(平均)正答率とします。

・反応率の算出

ある小問に対し、あらかじめ決めてある解答類型に含まれる解答をした人数の、全体に対する割合を、その小問におけるその解答類型の反応率とします。

・よくできた内容と不十分な内容の選定

当該受検者または当該受検団体の平均正答率や、受検者全体の平均正答率に基づいて、よく理解している内容及び理解が不十分な内容を、出題内容と学年・科目ごとに定めます。

・評価コメントの決定

受検者や受検団体を習熟の程度によっていくつかの層に分け、層ごとに、理解の程度や特筆すべき結果、指導のポイントを掲載します。

・問題と解説の決定

受検者について、点数の層や不十分な問題の内容にしたがい、問題と解説を1つ掲載します。

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

① 出題内容の妥当性・信頼性

1次: 計算技能検定では計算する力及び公式を活用する力を観ることを通して、主として知識・技能を測定しています。2次: 数理技能検定では記述式問題を通して、主として思考力・判断力・表現力を測定しています。

過去に出題した問題の正答率を参考にして問題を構成することによって、ほぼ一定の水準を保っています。

また、定期的に内部で検定問題の質に関する会議を開くほか、外部調査会社に検定結果に関する分析を委託し、検定問題に反映しています。

② 作問の体制と方法

ア. 作問の体制

過去 30 年間に出品した問題や検定問題品質委員が作成した問題をもとに、当協会内部の問題作成担当の専門職員が検定問題の作成を行っています。

検定問題品質委員は、主として特有問題の作成に関わっており、小学校、中学校、高等学校の管理職及び教諭、大学の数学者及び数学教育者、民間で数学教育に携わる者からなります。学習指導要領の作成、全国学力・学習状況調査の問題作成、文部科学省検定済教科書の執筆に携わった者もいます。準2級の問題作成に関わっているのは、高等学校及び大学関係の委員です。

イ. 作問の方法

過去に出題した問題の出題時の正答率を参考にして数値を変更したり、新作を開発したりします。検定問題品質委員が作成した問題は、出題する階級に合わせて問題文や内容に変更を加えることもあります。

問題作成担当の専門職員がこれらの問題から「Ⅰ. 出題に関すること」に適合するよう抽出し構成して、問題原稿を作成します。

問題原稿を編集担当の職員2人が確認し、必要であれば問題を差し替えたり、修正を加えたりして、制作原稿を完成させます。

制作した問題原稿を、初校、再校、三校と校正、修正を繰り返しながら整えて、検定問題とします。

(2) 学校における実施方法

実施方法については、「団体受検申し込みの手引き」に一連の流れが詳細に記載されています。

① 学校にとって過度な負担が掛からない実施方法

検定日当日の問い合わせやトラブルについては、当協会事業推進部が電話及び電子メールで対応しています。また、土曜日、日曜日の検定日には、担当者が8時から17時まで電話対応で対処しています。

② 学校の実情に応じた実施体制

年間17回程度の検定日を設定しています。これらの中から、学校の実情に応じて何度でも検定日を選ぶことができます。

検定開始時刻は、当協会が指定した範囲内であれば自由に設定できます。

団体受検に必要な志願者数は、1回の検定につき5人以上(級不問)ですが、島嶼・山間部の小規模校や特別支援学校においては、5人未満でも受検を受け入れています。

③ 利用する学校において担うべき役割・作業等

検定日前日までに、検定教室を確保、検定開始時刻を設定して、受検者に通知します。

検定日当日は、試験監督として次の作業を行っていただきます。

指定の時刻内に検定を開始する、出欠を確認する、検定時間中は不正のないよう机間巡視する、解答用紙・問題用紙を回収する(問題用紙は次水曜日以降に受検者へ返却)、解答用紙を返送する(当日できない場合は翌日中)

(3)採点の方法と体制

①採点の方法

解答用紙をスキャナで画像データとして取り込み、問題(小問)ごとに切り分けます。当協会事業開発部の採点管理者が採点者に問題を振り分け、採点者はPC上で同じ問題を続けて採点します。採点者には、切り分けられた小問の画像データしか送られないので、解答用紙の個人情報漏洩しません。

採点は採点基準にしたがって行われます。採点基準には、各回共通のものと当該回の問題に合わせて設定したものとがあります。短答式の問題については主として各回共通の基準にしたがい、記述式の問題については問題に合わせて詳細な採点基準を検定回ごとに設定します。

1次:計算技能検定は、すべて短答式で、採点は○か×で行われます。配点は、○のとき1点、×のとき0点ですが、小問15問のうち(14)と(15)は問題がさらに小問2問に分割されており、この場合、2問中1問正解で、0.5点となります。

2次:数理技能検定には、短答式の問題と記述式の問題があります。短答式の問題は、○(1点)か×(0点)で採点するものと、部分点を与えるものとがあります。記述式問題では、正解ならば1点、正解に至らなくとも途中まで正しければ記述の内容により、部分点を与えます。

②採点の体制

採点は外部の採点専門業者に委託し、採点基準に則って採点します。採点者が同じ問題を連続して採点することにより、時間的な効率化が図られ、採点ミスが最小限に抑えられています。

採点した答案のチェックに関しては、1回めの採点とは別の採点専門業者に委託しダブルチェックを行っています。また、協会内部でもチェックをし、採点業者及び採点者を監督しています。

(4)情報管理体制

①情報セキュリティ基本方針

当協会は、お客様・取引先情報を扱う法人としての社会的責任を果たすため、情報資産を管理・保護する指針として、情報セキュリティ基本方針を策定し、ホームページで情報セキュリティ基本方針を公開しています。

②個人情報基本方針

当協会は、数多くの個人情報を取り扱う法人として、個人情報を適切かつ安全に保護、管理することが重要な社会的責務であると認識しており、平成25年8月にプライバシーマークを取得し、個人情報保護方針をホームページで公開しています。

③機密保持契約

業務を委託する業者とは機密保持契約を締結し、万全な情報管理をしています。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

障害のある受検者の受検については、事前の相談により障害に合わせた配慮を行うようにしています。必要に応じて、補助教具の使用や検定時間の延長を認めています。

・視覚に関する配慮事項

点字受検及び拡大文字受検を実施しています。

・聴覚に関する配慮事項

個人受検の場合は、座席が前列にくるよう設定し、また検定監督のせりふをまとめた台本を配付しています。

・肢体不自由に関する配慮事項

代筆やコンピュータでの入力を認めています。

個人受検で車椅子での受検を希望する受検者に対しては、可能な範囲でバリアフリーの会場を準備し、出入りしやすい座席で対応しています。

・その他の配慮事項

障害により文字が読めない受検者に対して、代読を認めています。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

検定受検前後での学習教材として、下記の書籍、プリントを発行しています。

① 当協会発行書籍

ア. 過去問題集

実用数学技能検定過去問題集

イ. 問題集

実用数学技能検定記述式演習帳

ウ. 参考書

実用数学技能検定要点整理

② 当協会監修書籍

ア. 過去問題集

数学検定問題集(株式会社 創育)

実用数学技能検定過去問題集(株式会社 創育)

受かる！数学検定過去問題集(株式会社 学研教育出版)

イ. 問題集

受かる！数学検定(学研)

U-CAN の数学検定 ステップアップ問題集(株式会社 ユーキャン)

数学検定の完全対策＜1級～3級＞(株式会社 日本実業出版社)

解いてスッキリ！数学検定準2級への道問題集(株式会社 電気書院)

読めばスッキリ！数学検定準2級への道問題集(株式会社 電気書院)

③ その他

当協会発行学習教材(コンビニ情報端末による販売ツール)

ファミマプリント

苦手分野対策プリント

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

検定問題等に関するアンケートはとっていますが、学習状況に関するアンケートは行っていません。

(4) 個人受検の可否

年間3回個人受検を実施しています(4月、7月、10月または11月)。

(5) 問題内容の情報提供

① 既出問題

既出問題は、団体からの要望に応じて配付しています。ただし、検定を実施した回次の指定はできません。

検定実施後模範解答をホームページで公開しています。実施団体に対して、検定結果とともに紙媒体の模範解答を送付しています。

② サンプル問題

当協会のホームページで、サンプル問題と模範解答を公開しています。

(6) その他

実用数学技能検定の取得が、全国 450 校以上の大学・短大・専門学校で入学試験時の点数加算や出願条件、参考要素として活用されています。また、数学の単位として認める大学もあります。

企業の採用資料として広く活用されている「SPI 試験の非言語分野」と、準2級の出題範囲に多くの共通部分があります。

「実用数学技能検定は学習意欲の向上につながる」と感じている実施校の先生は 95.7%、受検者は 91.4%です。

公益社団法人全国工業高等学校校長協会が主催する「ジュニアマイスター顕彰制度」で、3級以上の合格が点数化されています。

教育委員会からの要望があれば、実施団体と相談のうえ個人情報が入らない範囲で情報提供することは可能です。

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会
測定ツール名:実用数学技能検定 準2級
対象教科:数学
測定内容の区分:標準タイプ

I. 出題に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準				
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)
実用数学技能検定の概要	指導者用ガイド2018年度版	資料1	○	○			

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II. (1)	II. (2)
受検者個人の成績表サンプル	個別成績票	資料2	○	
実施団体の成績表サンプル①	検定結果一覧(指導者用)	資料3		○
実施団体の成績表サンプル②	団体成績表	資料4		○

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	団体受検 申し込みの手引き 2018年度	資料5
学校用実施マニュアル	団体受検 申し込みの手引き 2018年度	資料5

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
情報セキュリティ基本方針(ホームページで公開)	情報セキュリティ基本方針	資料6
個人情報保護方針(ホームページで公開)	個人情報保護方針	資料7

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実用数学技能検定の概要	指導者用ガイド2018年度版	資料1

資料 5

指導者用

〔文部科学省後援〕 実用数学技能検定[®]

団体受検 申し込みの手引き

2018 年度 ver.1

もくじ

① 実施校登録申請	P 3
② 志願者の募集	P 3
・ 検定の免除申請について	
・ 併願受検について	
③ 受検申し込み(マイページの場合)	P 4
受検申し込み(郵送の場合)	P 4
・ 「検定実施諸経費」について	
④ 申し込み内容の確認	P 8
⑤ 検定料のお支払いについて	P 9
⑥ 検定資材(検定問題など)の到着	P10
⑦ 検定の実施・解答用紙の返送	P10
⑧ マイページでの合否確認	P11
⑨ 検定結果の到着	P11
特別欠席制度について	P12
・ 特別欠席制度の申請方法	
・ 特別欠席繰越金を使用しての申し込み方法	
特別欠席申請書・特別欠席同意書	P13
団体受検についてのQ&A	P14

数学検定 算数検定

**第320回2018年6月23日検定
(受付期間：4月23日～5月22日) から
以下のとおり変更になります。**

変更点

- 団体受検の算数検定(6～11級、かず・かたち検定)のみ
併願受検できるようになりました。

くわしくは、3ページの併願受検についてをご確認ください。

- 「団体受検 検定料志願者払い制度」ができました。

団体受検の検定料を検定ご担当者が一括でお支払いいただく従来の方法に加えて、志願者本人が直接お支払いをする制度ができました。ご利用条件は以下のとおりです。

利用条件

- (1) 教育委員会などの方針により、お金の取り扱いができない学校(私学含む)。
- (2) 団体受検は1回の検定につき、合計で5人以上の志願者が必要です。
- (3) お申し込み方法は、「マイページ申込」での申し込みに限ります。
- (4) 検定実施諸経費は適用外となり、検定料の全額を請求いたします(解答用紙の返送料は協会が負担します)。
- (5) 申込締切日後のキャンセル、追加、階級の変更、志願者の入れ替えなどは理由の如何によらず承れません。
- (6) 支払用紙に記載されている支払期日までに必ずお支払いください。返金・繰越しはできません。全員のお支払いが完了しない場合、検定問題の発送ができません。支払期日を過ぎて未払いがある場合は、団体様のご負担となりますのでご注意ください(支払期日は、おおむね申し込み締め切り日から20日前後です)。
- (7) 支払用紙を紛失された場合、システム上、用紙の再発行はできません。

ご希望の場合は、当協会にご連絡ください。

受検申し込みの 1週間前まで

申し込み締め切り日の 2～3日前まで

① 実施校登録申請

- 実用数学技能検定をはじめて実施する場合、**事前に実施校として登録**ください。登録に必要な書類は「実施校申込書」と「実施校に関する契約書」の2点です。
- **すでに実施校登録**(貴団体で契約書を1通保管)をしている場合は、再度申請する必要はありません。

- ①-1 実用数学技能検定公式サイト (<http://www.su-gaku.net/suken/>)から「学校・団体関係者」のページを開き、「実施校登録申請フォーム」からご申請くださるか、「実施校申込書ダウンロード」に進み、ご記入後 FAX でご送信ください。

実施校申込書▶

○「実施校申込書」FAX 送信先○

FAX : 03-5812-8345 (24 時間受け付け)

※FAX 番号の押し間違えにご注意ください。

- ①-2 【実用数学技能検定実施校に関する契約書】が2通郵送されます。契約書は、2通とも記名・捺印し、どちらか1通を当協会にご返送ください(当協会から登録完了のお知らせはしておりませんのでご了承ください)。

実用数学技能検定実施校に関する契約書

○契約書郵送先○

〒110-0005 東京都台東区上野5-1-1 文昌堂ビル4階
公益財団法人 日本数学検定協会
カスタマーサービスセンター 宛

- ①-3 当協会が契約書を受理した後、「マイページID(団体専用ページID)」「パスワード」を郵送します。

⚠ 「マイページID」と「パスワード」はマイページにログインする際に必要です(4ページ「③受検申し込み」参照)。

② 志願者の募集

- 団体受検に必要な志願者の人数は、**1回の検定につき、5人以上です**(数学検定、算数検定、かず・かたち検定の合計人数)。島嶼・山間部については当協会にご連絡ください。

- ②-1 【団体受検案内(受検申込書つき)】【ポスター】などの資料を活用して、志願者を募集します。



団体受検案内



ポスター



検定の免除申請について

1997 年度以降に実用数学技能検定準 1 ～ 5 級の 1 次 : 計算技能検定または 2 次 : 数理技能検定に合格している方が、同じ階級の 1 次免除または 2 次免除で志願する場合、検定料の 1,000 円引きが適用されます。この適用を受けるためには、該当する 1 次または 2 次合格証に記載された合格証番号がお申し込みの時に必要です。志願者から回収する受検申込書にこの番号が記入されているかを必ずご確認ください。

併願受検について

団体受検の算数検定(6～11 級、かず・かたち検定)のみ併願受検ができます(同一の志願者が同一の検定日に同一の会場に限り、隣接した 2 階級まで併願受検することができます)。

※2018 年 6 月検定から変更。

※併願する場合は階級ごとに受検申込書を提出してください。

※団体受検の「準 1 ～ 5 級」、個人受検の「1 ～ 11 級」はこれまでどおり併願受検することはできません。これらのことが判明した場合は、いずれも無効になります。

- ②-2 志願者から【受検申込書】(団体受検案内の裏表紙)と検定料を集めてください。

受検申込書

※【受検申込書】は公式サイトからもダウンロードしてご利用になれます。

<http://www.su-gaku.net/suken/>

申し込み方法は

A: マイページ申込

B: 郵送申込

のどちらかを
選択できます。

申し込み締め切り

A: マイページ申込

B: 郵送申込

③受検申し込み

1 マイページにログインする

①マイページのログイン画面にアクセスします。ブラウザのアドレスバーに次のアドレスを入力してください。
《アドレス》<https://www.su-gaku.org/dantai/>
公式サイトの「団体受検申込」からもアクセスすることができます。

《ログインに必要なもの》

1. 『マイページID(団体専用ページID)』数字7桁
2. 『パスワード』半角英数字8~10桁
※初回パスワードは協会が発行いたします
3. インターネットに接続されたパソコン

⚠ Windows7SP1以上、Internet Explorer8以上で動作します。
Internet Explorer以外のブラウザの動作保証はしておりません。

②マイページのログイン画面が表示されます。『マイページID』と『パスワード』を入力し、**ログイン** をクリックします。

⚠ セキュリティ保持のため、パスワードは定期的に変更いただくことをお勧めいたします。パスワードを一定期間変更されなかった場合、ログイン後にパスワード変更画面へ遷移いたします。あらかじめご了承ください。

※パスワードは半角英数字8~10桁で設定してください。
※パスワードは1文字以上の数字、英大文字、英小文字を含む必要があります。

2 検定を申し込む

1. 検定日を決定する

マイページトップ画面左欄の上から2番め、**検定のお申し込み** をクリックし、ご希望の検定日の **開始** をクリックします。

⚠ **開始** をクリックすると **申込中** になります。間違えて選択した場合は当協会にご連絡ください。

2. 申込団体基本情報を登録する

申込団体基本情報を登録します。申込団体基本情報の入力が終わりましたら **受検者の登録に進む** をクリックし、志願者の登録画面に進みます。

1 「検定申込書」に記入する

A. 検定申込書

【A.検定申込書】に必要事項をご記入ください。

※FAX送信の必要はありません。

⚠ 郵送申込の手順について
2015年1月検定から、郵送申込の手順が変わりました。

2 郵送する

【A.検定申込書(コピー)】と【受検申込書(志願者人数分・原本)】をすべて右記へ送付してください。

A. 検定申込書(コピー)

受検申込書(志願者人数分・原本)

締め切り日
必着!

⚠ 準1~5級の1次または2次検定の免除者を申し込む場合は、「すでに合格している1次または2次検定の合格証番号」を受検申込書に必ず記入してください。

申し込み締め切り日当日まで

申し込み締め切り日必着

申し込み方法に関わらず必ずお読みください

「検定実施諸経費」について（併願受験をする志願者は2人と数えます）

- 志願者合計人数が5～29人の場合：志願者1人につき300円
（例：志願者数が20人の場合は、300円×20＝6,000円）
- 志願者合計人数が30人以上の場合：志願者1人につき550円
（例：志願者数が100人の場合は、550円×100＝55,000円）

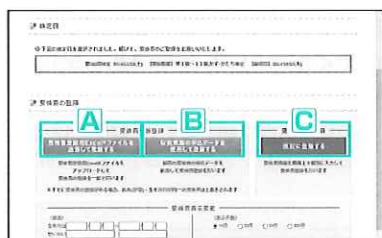
志願者から集めた検定料の合計金額から上記の「検定実施諸経費」を引いた金額がご請求金額となります。「検定実施諸経費」は会場費や監督料、通信費、解答用紙の返送料などに充当してください。

※残金が発生してしまうなどの理由により「検定実施諸経費」を受けとれない団体は、お申し込みの前に当協会にご連絡ください。

3. 志願者を登録する

志願者の登録方法には下記A～Cの3つの方法があります。一括登録後に個別に追加登録するなど、A・B・Cの方法を併用して登録することが可能です。また、志願者の登録・変更は申し込み締め切り日当日まで可能です。

- A 登録用Excel® ファイルを送信して登録する → 登録方法その1 (P5)へ
- B 以前実施の申込データを使用して登録する → 登録方法その2 (P6)へ
- C 個別に登録する(志願者を1人ずつ登録) → 登録方法その3 (P6)へ



⚠ 準1～5級の1次または2次検定の免除者を申し込む場合は、A・B・Cいずれの申し込み方法でも「すでに合格している1次または2次検定の合格証番号」の入力が必要です。

【登録方法その1】

A 登録用Excel® ファイルを送信して登録する

専用のExcel® ファイルをダウンロードして志願者リストを作成し、一括登録する方法です。新規の申し込み者が多数いる場合や、志願者が毎回異なる場合におすすめです。

- ①志願者の登録画面で、**登録用Excel® ファイルを送信して登録する** をクリックします。次の画面に進みます。

送付先
〒135-8073
東京都江東区青海2丁目4番32号タイム24ビル5階
東京都ビジネスサービス(株)内 (公財)日本数学検定協会分室
【連絡先:03-5812-8341 (公財)日本数学検定協会 本部】

⚠ **ご注意** 配達記録が残るよう、一般書留、簡易書留、レターパックなどをご利用ください。配達記録が残らない方法で送付された際の事故などには対応しかねます。

《Excel® ファイルのダウンロードと準備》

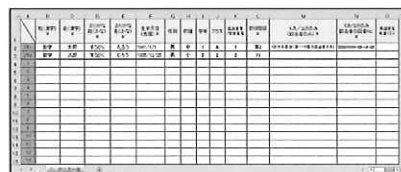
- ②画面右下の **登録用Excel® ファイルのダウンロード** をクリックし、表示された確認メッセージの **保存(S)** をクリックしてExcel® ファイルをパソコンに保存してください。

⚠ 従来(2014年12月6日検定まで)の、「インターネット申込」で使用していた「検定申し込みファイル」はマイページからアップロードすることができません。



クリック

- ③保存したExcel® ファイルを開き、各項目を入力後、必ず一度保存してください。



《Excel® ファイルのアップロード》

- ④Excel® ファイルを保存し、準備ができましたら、申し込み画面左下の **参照...** をクリックします。

- ⑤アップロードするファイルを選択する画面が開きますので、先ほど保存したファイルを選択して、**開く(O)** をクリックします。

- ⑥アップロードの準備が完了しました。**取込み** をクリックしてExcel® ファイルを登録します。

- ⑦取り込みが完了するとメッセージが表示されますので **OK** をクリックします。

⚠ 人数が多い場合、取り込みに時間がかかることがあります。メッセージが表示されるまで他の操作はせずお待ちください。

NEXT>>>

- ▶ 志願者情報の編集・削除・追加は「4. 志願者情報の編集・削除・追加」(7ページ)へ
- ▶ 申し込みの確定方法は「③申し込みを確定する」(8ページ)へ

NEXT>>>

- ▶ 申し込み内容の確認(8ページ)へ進む

※締め切り日までに、申し込み内容を必ずご確認ください。
締め切り後の志願者の追加・変更や階級の変更などは
お受けできません。

申し込み締め切り

③受検申し込み（つづき）

■ 検定を申し込む（つづき）

【登録方法その2】

㊦ 以前実施の申込データを使用して登録する

過去の申し込みデータを照会して、一括登録する方法です。

※照会できるのは、申し込み団体の過去最大6年間の情報に限ります(ただし2011年4月検定以降)。

①志願者の登録画面で、**以前実施の申込データを使用して登録する** をクリックします。
次の画面に進みます。

②過去の受検情報がプルダウンで表示されますので、利用する検定日を選択し、**呼び出し** をクリックします。



③確認メッセージが表示されますので、**OK** をクリックすると取り込みが開始されます。

⚠ 人数が多い場合、取り込みに時間がかかることがあります。メッセージが表示されるまで他の操作はせずお待ちください。

⚠ 選択できる検定日は1度に1回分ずつです。再度別の検定日を選択して呼び出すと、すでに登録されているデータはそのままで、追加分が登録されます。

⚠ 特別欠席の志願者は呼び出されません。【登録方法その3】「㊧個別に登録する」で登録してください。

④取り込みが完了するとメッセージが表示されますので、**OK** をクリックしてください。

【登録方法その3】

㊧ 個別に登録する

志願者を1人ずつ登録する方法です。

10人以下の少人数の登録におすすめです。また㊦・㊨の一括登録後、志願者を追加するときにも使用します。

①志願者の登録画面で、**個別に登録する** をクリックします。
次の画面に進みます。

②「個別に新規登録する」画面に進みます。1人ずつ志願者情報を入力してください。入力が終わりましたら、画面右下の**登録する** をクリックします。

※英語版での受検が可能な検定日では、英語問題の選択ボックスが表示されます。英語版で受検できるのは準1～8級のみです。



③確認メッセージが表示されますので、**OK** をクリックすると登録が始まります。

④登録処理が完了するとメッセージが表示されますので、**OK** をクリックします。これで1人分の志願者情報が登録されます。

NEXT>>

- ▶ 志願者情報の編集・削除・追加は
「4. 志願者情報の編集・削除・追加」(7ページ)へ
- ▶ 申し込みの確認方法は
「㊦申し込みを確認する」(8ページ)へ

A: マイページ申込

申し込み締め切り日当日まで

B: 郵送申込

申し込み締め切り日必着

4. 志願者情報の編集・削除・追加

4-1. 志願者情報の編集

一括編集はできません。

志願者情報を編集する場合は、志願者情報画面から1人ずつ行ってください。

- ①マイページトップ画面から、「お申し込み中の検定情報」の
受検者情報確認/変更 をクリックします。
- ②志願者情報が表示されます。
- ③編集をしたい行の「編集」をクリックします。編集画面に進みますので、内容の修正をしてください。

クリック

氏名	姓	名	性別	生年月日	検定科目
☐	田中	太郎	男	1995/01/01	国語
☐	山田	花子	女	1996/02/02	数学
☐	佐藤	一郎	男	1997/03/03	英語

- ④編集が完了したら「登録する」をクリックします。
- ⑤確認メッセージが表示されますので、「OK」をクリックすると登録が始まります。
- ⑥登録処理が完了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックして編集完了です。

【繰越金を使用する場合】

繰越金を使用するためには、マイページで繰越志願者の氏名を確認し、4-1.③の編集画面に進み「特別欠席繰越金を使用する」にチェックを付けて4-1.④の「登録する」をクリックして下さい。

繰越金を使用できるのは、繰越志願者本人のみです。登録の際に氏名、かな、生年月日が一致しないと正しく繰越金を使うことができませんので、ご注意ください。

検定お申し込み/登録情報の登録

検定お申し込みの氏名を確認し、登録する。

氏名: 田中 太郎

性別: 男

生年月日: 1995/01/01

検定科目: 国語

特別欠席繰越金を使用する: ☒

登録する

チェック

4-2. 志願者情報の削除

- ①マイページトップ画面から、「お申し込み中の検定情報」の
受検者情報確認/変更 をクリックします。
- ②志願者情報が表示されます。
- ③削除したい行で、左端のチェックボックスにチェックを入れます。複数行のチェックも可能です。

クリック

氏名	姓	名	性別	生年月日	検定科目
☐	田中	太郎	男	1995/01/01	国語
☐	山田	花子	女	1996/02/02	数学
☐	佐藤	一郎	男	1997/03/03	英語

- ④チェックが終わりましたら、「チェックした登録データを削除」をクリックします。
1度削除したデータの復元はできませんのでご注意ください。
- ⑤確認メッセージが表示されますので、「OK」をクリックして削除完了です。

4-3. 志願者情報の追加

- ①マイページトップ画面から、「お申し込み中の検定情報」の
受検者情報確認/変更 をクリックします。

お申し込み中の検定情報

氏名: 田中 太郎

性別: 男

生年月日: 1995/01/01

検定科目: 国語

特別欠席繰越金を使用する: ☐

登録する

クリック

- ②「☒ 個別に登録する」の手順で、志願者を追加してください。

NEXT

▶ 申し込みの確定方法は
「☒ 申し込みを確定する」(8ページ)へ

NEXT

▶ 申し込み内容の確認(8ページ)へ進む

※締め切り日までに、申し込み内容を必ずご確認ください。締め切り後の志願者の追加・変更や階級の変更などはお受けできません。

A: マイページ申込

申し込み確定後

③ 受検申し込み（つづき）

3 申し込みを確定する



締め切り日までに必ず確定してください！

確定しないと、申し込み完了となりません。

①志願者登録画面の「**お申し込み内容を確認する**」をクリックし、「お申し込み内容の確認」画面に進みます。

②「申込状態」の欄に青字でメッセージが表示されている場合はお申し込みを確定することができます。



志願者数が5人に満たない、階級未選択などの場合は「申込状態」に赤字でメッセージが表示されます。この状態では申し込みを確定できませんので、志願者登録画面に戻り、不備を修正してください。

③受検番号採番順序で、採番ルールを選択してください。

④お申し込み確定前に、必ず「検定日」「志願者氏名」、登録漏れなど、お申し込み内容を必ずご確認ください。



締め切り日前でも申し込みの確定を行うと、以後は「**登録用Excel®** ファイルを送信して登録する」「**以前実施の申込データ**を使用して登録する」は使えなくなります。

検定日を確認

赤字の表示がないか確認

人数を確認

⑤申し込み内容を確認して間違いがなければ

「**お申し込みを確定する**」をクリックします。



請求先が本部宛の団体の場合「**お申し込みを確定する**」をクリックしてもデータを確定することができません。申し込み締め切り日後に当協会がデータの確定作業を行いますので、そのままログアウトしてください。

⑥確認メッセージが表示されます。「**OK**」をクリックして確定完了です。

④ 申し込み内容の確認

申し込み確定後の申し込み内容は、次の手順で確認することができます。

- ④-1 マイページにログインします。ログイン方法は、「**マイページにログインする**」(4ページ)をご覧ください。
- ④-2 ログイン後のトップページの「お申し込み中の検定情報」に申し込まれた検定日と階級ごとの人数が表示されます。
- ④-3 「検定実施に関する資料」を、申込締切日の2~3日後にマイページの「重要なお知らせ」に掲載いたしますので、保存または印刷して事前に必ずお読みください。

④ 申し込み内容の確認

申し込み後約 7 日後（当協会の休業日を除く）に、ご担当者あてにFAXで「検定申込確認書」「受検者一覧表」「検定実施に関する資料」の 3 点をお送りします。

※上記 3 点の書類がご担当者あてに届かない場合、検定問題が発送されませんのでご注意ください。

※申し込みをしてから 10 日を経過してもFAXが届かない場合は、下記連絡先まで直接ご連絡ください。



FAX 未着の際の連絡先

TEL.03-5812-8341

月～金 9:30～17:00（祝日・年末年始・当協会の休業日を除く）

B: 郵送申込

申し込み後約7日で

A: マイページ申込

の場合

【申し込み締め切り日まで】

クリックすると、今回お申し込みの志願者一覧をご覧になれます。

クリック

【申し込み締め切り日後】

クリック

B: 郵送申込

の場合

※申し込み内容はマイページでもご覧になれます。

検定申込確認書

受検者一覧表

検定実施に関する資料

《検定申込確認書》

この書類は、申し込みの確認書です。申し込み内容に誤りがないかご確認ください。

《受検者一覧表》

※この書類には、志願者の名前や受検階級が記載されています。受検階級や人数に誤りがある場合は、FAX到着後2日以内（当協会の休日を除く）に当協会までご連絡ください。

※氏名の訂正は検定終了後に行います。該当する部分を二重線で訂正して、解答用紙と一緒にご返送ください。

※志願者の名前は、『階級→学年→クラス→かな姓名』の順に並べ替えし、記載されます。

申し込み締め切り日から
7日前後で請求書を発送

⑤検定料のお支払いについて

⚠ お支払い方法が、請求書による払い込みに変わりました。

- ⑤-1 申し込み締め切り日から、7日前後（当協会の休業日を除く）に「SMBCファイナンスサービス株式会社 決済ステーション 払込票発送担当」から「請求書兼払込票」を封書で発送いたします。

- ⑤-2 金額をご確認のうえ、請求書に記載の支払期限までに検定料をお支払いください。コンビニエンスストアまたはゆうちょ銀行（郵便局）でお支払いになれます。

⚠ 法令により、ゆうちょ銀行で10万円を超える払い込みには団体の証明書類が必要になります。

【注意事項】

- ※申し込み締め切り日の翌日以降に欠席が判明した場合も検定料が発生します。
- ※一旦納入された検定料は理由の如何によらず返還いたしません。また次回以降への充当もできません。
- ※コンビニエンスストアでは30万円を超える払い込みができません。その場合は、ゆうちょ銀行からお支払いください。
- ※払込票に印字されている金額を、訂正なさぬようお願いいたします。
- ※検定料の払い込みが確認できない場合、検定結果の発送やマイページでの合否確認サービスのご利用ができないことがあります。
- ※申し込み締め切り日から10日たっても請求書が届かない場合は、当協会までご連絡ください。

●「請求書兼払込票」を使用せずに検定料をお支払いされる場合

「払込票」に記載されている口座は払込票利用のための専用口座です。「払込票」に記載されている口座にはお振り込みをなさらないでください。下記いずれかの口座に検定料をお振り込みください。

●海外で団体受検を実施する場合

「請求書兼払込票」は発行いたしません。申し込み締め切り日から1週間以内に、下記口座へ検定料をお振り込みください。

※海外からの送金では、「支店番号 377」「国際ナショナルソースコード：ABA」が必要です。スウィフトコードが必要な場合は、「BOTKJPJT」をご指定ください。

〈三菱UFJ銀行〉（英文名：MUFG Bank,Ltd.）
金町支店（普通）0719826
口座名義 公益財団法人日本数学検定協会

〈ゆうちょ銀行（郵便局）〉
郵便振替口座 00130-5-50929
加入者名 公益財団法人日本数学検定協会

お振り込み後は、検定日・団体名をご記入のうえ領収書・明細書等を当協会へFAX（03-5812-8345）でご送信ください。
※FAX番号の押し間違いにはご注意ください。

検定日の 前日まで

⑥ 検定資材(検定問題など)の 到着

- 検定日の前日までに「検定資材」が到着します。

- ⑥-1 「検定実施に関する資料」と同じ内容の資料、検定問題、バーコードシールなどをセットにした「検定資材」が検定日の前日までに到着します。検定日までの準備を行ってください。

検定日までの準備

- (1) 検定資材が到着したら、外袋(箱)のみ開封し、バーコードシールなど内容物に漏れがないかを確認し、「検定実施に関する資料」をよくお読みください。
- (2) 検定問題は内袋に別梱包されています。検定問題は開封せず、鍵のかかるロッカー・金庫などに厳重に保管し、検定問題の漏洩、盗難防止に万全の注意を払ってください。
- (3) 検定問題は検定日当日に開封してください。検定日以外の日に開封することを禁じます。
- (4) あらかじめ、受検者に以下の内容を連絡してください。
 - 当日の持ち物(下表参照)を持参すること。
 - 階級によって、ものさし(定規)、コンパス、分度器がないと解けない問題が出題される場合があること。
 - 準1～5級の2次:数理技能検定で電卓(算盤)の使用が認められること。使用できる電卓の種類は、一般的な電卓・関数電卓・グラフ電卓です。
※ 通信機能や印刷機能をもつ電卓はご使用になれません。
また、携帯電話・電子辞書・パソコン等の電卓機能も使用できません。

当日の持ち物

階級によって持ち物が異なります。

階級	準1～5級	6～8級	9～11級	ゴールドスター・シルバースター
筆記用具	必須	必須	必須	必須
ものさし(定規)	2次検定のみ必須	必須	必須	
コンパス	2次検定のみ必須	必須		
分度器	2次検定のみ必須	必須		
電卓(算盤)	2次検定のみ持参してもよい			

検定日 当日

⑦ 検定の実施・ 解答用紙の返送

- 検定日当日は、検定問題と一緒に送られる「検定実施に関する資料」の「団体受検実施の流れ」にそって検定を実施してください。

- ⑦-1 同一の階級は同一の時刻で一斉に開始してください。

検定の 開始時刻		団体受検のみの検定日→午前 9 時以降の適切な時刻 個人受検がある検定日→午後 1～2 時	
階 級	※1級は団体受検が できません	1次：計算技能検定 検定時間	2次：数理技能検定 検定時間
準1級		60 分	120 分
2級・準2級		60 分	90 分
3級～5級		60 分	60 分
6級～8級		50 分	※1次と2次の区分はありません。
9級～11級		40 分	※1次と2次の区分はありません。
ゴールドスター、シルバースター			

検定の実施

- (1) 検定問題を開封します。
開封の際、受検者へ次のように宣言してください。
「この検定問題は、本日、開封されました」
- (2) 1次:計算技能検定の検定問題(6～11級、ゴールドスター、シルバースターは受検階級の検定問題)を配付し、解答用紙への必要事項などが記入できたら、検定を開始してください。遅刻者は検定開始後30分(6～11級、ゴールドスター、シルバースターは15分)以内であれば受検が認められますが、時間の延長はありません。途中退室は、検定開始時刻から30分(6～11級、ゴールドスター、シルバースターは20分)経過後、可能です。
1次検定終了後に問題用紙と解答用紙を回収してください。
- (3) 準1～5級は、1次検定終了後、5～10分休憩し、2次:数理技能検定を実施してください。遅刻・途中退室の対応は1次と同様です。
2次検定終了後に問題用紙と解答用紙を回収してください。
※回収した問題用紙は、水曜日以降に受検者へ返却してください。

解答用紙の返送

- (1) 以下のものを検定日当日に封入します。
 - ・ 解答用紙
 - ・ 受検者一覧表(欠席、1次/2次スミなど記入済みのもの)
 - ・ 実施状況明細書(記入済みのもの)
 - ・ 残ったバーコードシール(欠席者など)
- (2) 封入漏れがないかを確認し、可能な限り検定日当日(当日返送ができない場合は翌日中)に配達記録が残る方法で所定の返送先へ返送してください。
※著しく解答用紙の返送が遅れた場合、可否結果の発送が遅れたり、採点結果が無効になることがあります。
※普通郵便などでの送付は受け付けておりません。遅延・事故などの恐れがあります。
紛失した場合、当協会は責任を負いかねます。
※送料は検定実施諸経費から充当してください。

【解答用紙返送先について】

検定資材に同封されている「検定実施に関する資料」に記載しております。

検定日から
約3週間後

検定日から
約30日後

⑧ マイページでの 合否確認

- 「マイページ」から検定の合否結果をご確認になれます。
- 模範解答は検定日から約2週間後に公式サイトでご覧になれます(公開期間は約30日間)。

⑧-1 マイページにログインします。ログイン方法は、「**①**マイページにログインする」(4ページ)をご覧ください。

⑧-2 トップページ「お申し込み中の検定情報」から、確認したい検定の **合格発表** をクリックしてください。

⚠ 検定日から1か月以上経った検定は「お申し込み中の検定情報」に表示されない場合がございます。その場合は、**合格発表の確認** をクリックしてください。



⑧-3 クリックすると、別ウィンドウで合否結果が表示されます。**検定結果CSVダウンロード** で、お使いのパソコンにcsv形式で合否結果を保存することもできます。

⚠ csv形式とは項目をカンマ(,)でつないだテキスト形式のファイルです。Excel®で読み込んで編集することができます。このcsv形式ファイルには「1次合格」「2次合格」の受検者の「合格証番号」も入っています。次回以降、1次/2次免除で申し込む際にこちらをご利用くださると便利です。

⑨ 検定結果の到着

⑨-1 検定日から約30日後を目安に、検定結果が担当者へ送付されます(年末年始など、当協会の休業日を除く)。送付される資料は以下の6点です。

- ・【検定結果一覧(指導者用)】
- ・【模範解答】
- ・【合格率および正答率一覧】
- ・【合格証】※受検者に配付してください
- ・【合格証明書】※受検者に配付してください
- ・【個別成績票】※受検者に配付してください

検定結果一覧(指導者用)

模範解答

合格率および正答率一覧



合格証



合格証明書

個別成績票

特別欠席制度について

特別欠席制度とは、実用数学技能検定の団体受検の申し込み後に下記に定める事由により欠席せざるを得なくなった志願者を、『特別欠席』として、次回、貴団体で団体受検を実施するときに検定料を繰り越し^(注1)する制度です。

検定料の繰り越しにあたっては、検定日から2週間以内(2週間後が祝祭日の場合には翌業務日まで)に所定の書類をまとめて当協会へ提出してください。期日を過ぎてからの申請や、書類に不備があった場合、当協会での確認において特別欠席に該当しない事由と判断された場合^(注2)には繰り越しすることができませんのでご了承ください。

(注1)繰り越し金額の適用期限は翌年度の3月検定までで、同会場の団体受検のみ適用されます。個人受検や、別団体での受検には適用できません。

(注2)学校が公式欠席としていても当協会の基準にあてはまらない場合には適用されないことがあります。

特別欠席の対象になる事由

欠席事由	詳細	必要書類	
		同意書 (P13)	その他添付資料
1 公式大会への出場	公式大会の主催者が、国・地方自治体、および全国的に組織されている団体^(※1)であり、該当の志願者が大会参加団体の代表選手としてその大会に出場する場合。 - 練習試合や親善試合、部活動の練習活動や合宿などは適用されません。 - 公式大会に出場する選手のみ適用になります。応援者としての参加や、大会・種目の規程に定められている人数に含まれない補欠は適用されません。 - マネージャーは大会要項に明記されている場合のみ適用いたします。 - 学校外活動として個人的に大会へ出場する場合や、サークル・同好会などに参加する場合は適用されません。 - 検定日が大会参加日の当日と重なる場合のみ適用いたします。開会式や移動日などは適用されません。		大会要項のコピー - 大会の概要(大会の名称、主催者、開催日時など)が明記されているもの。 - または、該当者に大会への出場を要請するもの。 - 大会要項で判断が難しい場合、選手登録申請書、トーナメント表など、選手であることを証明できる書類等の提出をお願いすることがあります。
2 学校保健安全法に定められた感染症の感染	学校保健安全法施行規則第三章第十八条に定められた感染症^(※2)に感染し、検定日当日に出席停止となった場合。 - 検定日が出席・出勤停止の期間と重なっている場合に限り適用します。 - 学校・学級閉鎖などによる感染者以外の志願者が欠席する場合は、お申し込み後、なるべく早めに当財団へご相談ください。 - 上記に定められていないもの(風邪、骨折、その他の傷病)は適用されません。	必須	
3 忌引き	親等・日数の適用範囲は各団体の定める基準に準ずる。 葬儀・通夜のみ適用いたします。法事は適用されません。	必須	

※1 (公財)日本体育協会、(公財)全国高等学校体育連盟、(公財)日本中学校体育連盟、(公社)高等学校文化連盟、教育委員会など。

※2 学校保健安全法施行規則第三章第十八条に定められた学校において予防すべき感染症の種類(下記参照・学校保健安全法施行規則第三章第十八条から抜粋)

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ベスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清型がH5N1であるものに限る。次号及び第十九条第一項第二号イにおいて「鳥インフルエンザ(H5N1)」という。)
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱及び結核
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

特別欠席制度の申請方法

- 13ページの「特別欠席申請書」をご記入ください。
- 上記の表に基づいて必要な書類をご用意ください。
- 検定日から2週間以内に1、2をFAX(03-5812-8345)で送信してください。

※「特別欠席申請書」の到着後、30日以内に折り返しFAXで申請書受領のご連絡をいたします。
30日を経過しても当協会からFAXが届かない場合はご連絡ください。
また、マイページの「繰越金情報」からも繰越志願者が確認になれます。

特別欠席繰越金を使用時の申し込み方法

● 郵送申込の場合

「A. 検定申込書」に特別欠席をした繰越志願者名と検定日を記入してお申し込みください。

● マイページ申込の場合

7ページ【繰越金を使用する場合】を参照してください。

次回お申し込みの際、階級変更をされる場合は差額分が請求となります。

実用数学技能検定 特別欠席申請書

申請日 平成 年 月 日

※FAX 番号の押し間違いには十分ご注意ください。

太枠内を記入し、担当者のご捺印をしてください。

FAX 送信先 **03-5812-8345**

検 定 日	平成 年 月 日	マイページ ID	
団 体 名		電 話 番 号	— —
担 当 者 名	印 (ゴム捺印不可)	FAX 番 号	— —

階 級	受検番号	氏 名	欠 席 理 由	1次/2次 のみ志願者
級			1. 公式大会への出場 (種目名) 2. 感染症の感染 (病名) 3. 忌引き	☒
級			1. 公式大会への出場 (種目名) 2. 感染症の感染 (病名) 3. 忌引き	☒
級			1. 公式大会への出場 (種目名) 2. 感染症の感染 (病名) 3. 忌引き	☒
級			1. 公式大会への出場 (種目名) 2. 感染症の感染 (病名) 3. 忌引き	☒
級			1. 公式大会への出場 (種目名) 2. 感染症の感染 (病名) 3. 忌引き	☒

2.「学校保健安全法に定められた感染症の感染」、3.「忌引き」用

以下の事項にご同意のうえ、申し込み団体の担当者へご提出ください。なお、ご記入いただく個人情報、申し込み団体から公益財団法人日本数学検定協会へ提出されます。

【このフォームでお預かりする個人情報の取り扱いについて】

- 1) 事業者の名称：公益財団法人日本数学検定協会
- 2) 個人情報保護管理者の職名、所属及び連絡先：管理者職名：個人情報保護管理者、所属部署：事務局 事務局次長、連絡先：03-5812-8340
- 3) 個人情報の利用目的：特別欠席にかかわる業務（団体情報の管理、担当者情報の管理、担当者との連絡、繰り越し金額の管理、各種問い合わせの対応など）のため。

4) 個人情報取り扱いの委託：

前項利用目的の範囲に限って個人情報を外部に委託することがあります。

5) 個人情報の第三者への提供：法令に定める特別の場合を除いて、ご本人の同意なく第三者へ開示・提供しません。

6) 個人情報の開示等の請求：

ご本人様はご自身の個人情報の開示等に関して、下記のお問い合わせ窓口に出る事ができます。その際、当協会はご本人様を確認させていただいたうえで、合理的な対応を期間内にいたします。

公益財団法人 日本数学検定協会 カスタマーサービスセンター 〒110-0005 東京都台東区上野 5-1-1 文昌堂ビル 4 階 TEL：03-5812-8341 FAX：03-5812-8345

電話お問い合わせ時間：月～金 9:30～17:00（祝日、年末年始、当協会の休業日を除く）

7) 個人情報を提供されることの任意性について：

ご本人様が当協会に個人情報を提供されるかどうかは任意によるものです。ただし正しい情報をいただけない場合、適切な対応ができない場合があります。

特別欠席同意書(コピーしてお使いください。)

公益財団法人 日本数学検定協会 行

実用数学技能検定 特別欠席同意書

記入日：平成 年 月 日

【 】内のどちらかに○をつけてください。

私は、【忌引き・学校保健安全法に定められている病気(病気：)】のため、今回の実用数学技能検定を欠席したことを、公益財団法人日本数学検定協会へ伝えることに同意します。また、欠席理由が「学校保健安全法に定められている病気」の場合、公益財団法人日本数学検定協会より求められれば、診断書の提出にも同意します。

本人、または保護者署名：

印

受検番号：

生年月日：

年

月

日

(※診断書の提出は当協会において判断が難しい病名の場合に限ります)

団体受検についての Q & A

実施のご検討からお申し込みまで

Q1 検定日は自由に決められますか？

A 当協会が設定した検定日(別紙「実用数学技能検定ガイド」の裏表紙や公式サイトをご覧ください)の中から選択することができます。団体受検の検定日で実施できない事情がある団体はご相談ください。

Q2 志願者全員が同じ階級でないといけませんか？

A 志願者全員が同じ階級である必要はありません。数学検定・算数検定・かずかたち検定の志願者が合計で5人以上(級不問)集まれば団体受検が可能です。

Q3 1人の志願者が複数の階級を受検することはできますか？

A 団体受検の算数検定(6～11級、かず・かたち検定)のみ併願受検ができます(同一の志願者が同一の検定日に同一の会場に限り、隣接した2階級まで併願受検することができます)。※2018年6月検定から変更。
※併願する場合は階級ごとに受検申込書を提出してください。
※団体受検の「準1～5級」、個人受検の「1～11級」はこれまでどおり併願受検することはできません。これらのことが判明した場合は、いずれも無効になります。

Q4 1人の志願者が学校と塾など2つ以上の団体で志願することはできますか？

A 検定日(検定回)が異なれば学校と塾のそれぞれで志願することができます(例：第210回検定を学校、第211回検定を塾で受検することは可能)。同一検定日の検定を複数の団体で志願することはできません(これらのことが判明した場合、いずれも無効になります)。

Q5 団体に在籍していない希望者と一緒に団体受検できますか？

A 在籍していない志願者と一緒に団体受検することができます。申し込み手続きのほか、当日の検定実施、検定結果の配付なども団体の担当者が行ってください。(当協会が検定結果だけを本人の自宅に別送するといったことは行っておりません)
当協会には「外部受検者受け入れ登録」という制度もあります。ご興味のある方は公式サイトでご確認ください。

Q6 団体内の締め切り日はどのように設定したらよいですか？

A 団体受検の申し込み締め切り日に余裕をもってご設定ください。

Q7 1級の受検希望者がいますがどのようにしたらよいですか？

A 1級は個人受検のみ実施いたします。志願者ご自身で個人受検をお申し込みくださるようお願いいたします。

Q8 郵送申し込みの場合、志願者が記入する「受検申込書」は団体独自の様式でも大丈夫ですか？

A 氏名、ふりがな、生年月日、受検階級など必要項目が含まれていれば独自の様式でもかまいません。

Q9 合格証・合格証明書に記載されている合格証番号が不明なときは、どうしたらよいですか？

A マイページから以前実施の申込データより、お調べすることができます。照会できるのは、申し込み団体の過去最大6年間の情報に限ります(ただし2011年4月検定以降)。

Q10 免除の申請はどのようにしたらよいですか？

A 志願者は「受検申込書」に合格証番号を記入してお申し込みください。マイページでお申し込みの場合、合格証番号の入力が必要です。免除の該当者は検定料の1,000円引きが適用されます。

Q11 マイページID、パスワードを忘れてしまった。

A マイページID・パスワードをお忘れの方はマイページログイン画面の申請方法をご覧ください。
※マイページID・パスワードの再発行には、少々お時間をいただく場合がございます。5日(当協会の休業日を除く)を過ぎても返信がない場合は、お手数ですが当協会(電話 03-5812-8341)までご連絡ください。また、本人確認のため当協会からお電話を差し上げる場合がございますのであらかじめご了承ください。

団体受検の実施について

Q1 検定問題や解答用紙はいつ届きますか？

A 検定問題や解答用紙などの「検定資材」は、検定日の前日までに到着するよう発送いたします。

Q2 検定問題や解答用紙はどのように梱包されていますか？

A 外袋と内袋の二重梱包になっています。内袋には検定問題が封入されており、検定日当日の開封です。検定資材が到着したら外袋のみ開封し、内容物をご確認ください。検定問題が封入されている内袋は検定日当日まで鍵のかかる場所で大切に保管してください。

Q3 バーコードシールを斜めにはってしまった場合は、はりなおさないといけないですか？

A そのままで差し支えありません。

Q4 検定日当日に台風などの天災や、やむを得ない事情により休校や学級閉鎖などが決まった場合は、どのようにしたらよいですか？

A 決定した時点で当協会へお電話ください。

Q5 欠席者への対応はどのようにになりますか？

A 欠席者の検定料の返金や繰り越し再受検などはできません。ただし「学校保健安全法に定められている病気」「忌引き」「公式大会への出場（公欠扱いによるもの）」により受検ができない場合には、特別欠席の申請手続きをして当協会から承認を得てください。承認を得た場合に限り、該当の欠席者の検定料を次回、団体受検されるときまで繰り越すことができます。くわしくは本手引きの12ページをご覧ください。欠席者には検定終了後、翌水曜日以降に検定問題をお渡しください。

Q6 当日、階級によって教室を分けなくてはいいませんか？

A 同じ教室で実施できます。検定問題の配付間違いや検定時間には十分ご注意ください。

団体受検の実施後

Q1 合格証が届きましたが、氏名の漢字や生年月日が間違っていました。合格証の訂正はできますか？

A 合格証が到着してから3週間以内に下記の手順にしたがって手続きを行ってください。

1. 合格証の誤っている漢字や生年月日を二重線で消し、そばに正しい内容を手書きしてください。
2. 合格証の余白に「団体名」「団体の電話番号」「担当者名」を記入してください。
3. 記入済みの合格証を当協会までFAX(03-5812-8345)でお送りください。

当協会にFAXが到着後、訂正した合格証を発行し、担当者あてにお送りします。なお、氏名の漢字についてはJIS第二水準を基準としております(当協会のコンピュータで対応できない漢字もございますのであらかじめご了承ください)。

Q2 合格証明書がほしいのですが。

A 下記の(1)~(3)を郵便でお送りください。当協会に到着してから約1週間後にお届けします。

- (1)必要事項を記入した「合格証明書申請書(公式サイト <http://www.su-gaku.net/> からダウンロードしてください)」
- (2)合格証のコピー(紛失等の際は不要です)。
- (3)必要枚数分の料金を振り込んだ領収書または明細書

Q3 合格証を紛失しました。再発行はできますか？

A 再発行はできません。合格証明書(有償)は発行できます(くわしくは公式サイトをご覧ください)。

Q4 履歴書・調査書の記入の仕方は？

A 就職や進学の際に学習成果を履歴書や調査書に表示する場合、下記のようにご記入ください。(例：3級)

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| ◆3級1次・2次ともに合格 | → 実用数学技能検定 3級 合格 |
| ◆3級1次のみ合格 | → 実用数学技能検定(1次：計算技能検定) 3級 合格 |
| ◆3級2次のみ合格 | → 実用数学技能検定(2次：数理技能検定) 3級 合格 |

各種宛先一覧

各種書類を当協会にお送りいただく際に便利な、宛先ラベル一覧です。コピーをとってお使いください。

※宅配便にはご使用になれません。各社専用の宅配伝票に各宛先を直接ご記入ください。

※必ず配達記録が残る方法でお出しください。配達記録が残らない方法で送付された際の事故などには対応しかねます。

A 契約書返送用宛名

本冊子3ページ「①実施校登録申請」の項目で使用します。

「実用数学技能検定実施校に関する契約書」をご返送いただく際に、宛名ラベルとしてお使いください（当協会から契約書を送る際には返信用封筒をお付けしております）。

B 団体受検申込用宛名

本冊子4ページ「③受検申し込み（B:郵送申込）」の項目で使用します。

団体受検を郵送で申し込む際に、宛名ラベルとしてお使いください（配達記録が残る方法で送付してください）。

キリトリ

〒110-0005

東京都台東区上野5の1の1
文昌堂ビル4階
公益財団法人日本数学検定協会
カスタマーサービスセンター 行

契約書在中

キリトリ

キリトリ

〒135-8073

東京都江東区青海2丁目4番32号
タイム24ビル5階
東京都ビジネスサービス(株)内
公益財団法人日本数学検定協会分室 行

団体受検申込書在中

キリトリ

実用数学技能検定 団体受検 検定日

2018年度（2018年4月～2019年3月）

第319回* 4月15日(日)	第325回 10月20日(土)	第331回 12月1日(土)
第320回 6月23日(土)	第326回 10月26日(金)	第332回 1月19日(土)
第321回 7月7日(土)	第327回* 10月28日(日)	第333回 2月15日(金)
第322回* 7月22日(日)	第328回 11月10日(土)	第334回 2月16日(土)
第323回 8月25日(土)	第329回 11月16日(金)	第335回 3月2日(土)
第324回 9月29日(土)	第330回 11月17日(土)	

◆*の検定日は、個人受検も実施いたします。

◆検定日によって受検できる階級が異なります。くわしくは、「検定日一覧」または公式サイトでご確認ください。

検定料早見表

検定階級	検定料	検定階級	検定料
準1級	4,500円	6級	2,000円
2級	4,000円	7級	2,000円
準2級	3,500円	8級	2,000円
3級	3,000円	9級	1,500円
4級	2,500円	10級	1,500円
5級	2,500円	11級	1,500円
		ゴールドスター	1,500円
		シルバースター	1,500円

くわしい情報はここから〈電話お問い合わせ時間〉月～金9:30～17:00(祝日・年末年始・当協会の休業日を除く) ※検定申し込み締め切りの日は9:30～17:30



03-5812-8341



03-5812-8345



www.su-gaku.net/suken/ 数学検定 または 算数検定 検索

www.facebook.com/sugaku.kentei

@sugaku_net twitter.com/sugaku_net

公益財団法人 日本数学検定協会

【本部】〒110-0005 東京都台東区上野5-1-1 文昌堂ビル6階
【カスタマーサービスセンター】〒110-0005 東京都台東区上野5-1-1 文昌堂ビル4階

※「数検」「数検／数学検定」「数検／Suken」は当協会に専用使用権が認められています。



DS08-1804

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名:実用数学技能検定 準2級

対象教科:数学

測定内容の区分:標準タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
【1次:計算技能検定】 〔義務教育段階の数学〕			
・ <u>数の平方根を含む式の計算</u> を, 既習の計算と関連付け て計算することができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	A 数 と 式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A (1) イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
・ <u>数の平方根を含む式の四則 計算</u> ができる。			
・ <u>単項式と多項式の乗法及び 多項式を単項式で割る除法 の計算</u> ができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	A 数 と 式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A (2) ア 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算を すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>簡単な一次式の乗法の計算及び乗法公式や因数分解の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解</u>ができる。 ・ <u>式の展開や因数分解を、交換、結合や分配法則などを用いて計算する</u>ことができる。	1 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 A (2) イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$ $(a-b)^2 = a^2 - 2ab + b^2$ $(a+b)(a-b) = a^2 - b^2$ $(x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab$
・ <u>因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解く</u>ことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 A (3) イ 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこと。
・ <u>解の公式を用いて二次方程式を解く</u>ことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 A (3) ウ 解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。
・ <u>相似な三角形の対応する辺の長さを求める</u>ことができる。 ・ <u>平行線と線分の比についての性質を用いて、線分の長さなどを求める</u>ことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (1) ウ 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確認すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ある図形の面積や体積が分かっているとき、その図形と相似な図形の面積や体積を相似比を基にして求めることができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (1) エ 基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。
・円周角と中心角の関係をを用いて、角の大きさを求めることができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (2) ア 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知ること。
・三平方の定理を用いて、直角三角形の辺の長さなどを求めることができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (3) ア 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。
・三平方の定理を用いて、長方形の対角線の長さなどを求めることができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (3) イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。
・関数 $y=ax^2$ の関係を式で表すことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	C 関数	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 C (1) ア 事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ること。
・関数 $y=ax^2$ の関係を表す式に数を代入し、対応する値を求めることができる。			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
関数 $y=ax^2$ の変化の割合を求めることができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	C 関数	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 C (1) イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
〔数学 I〕			
- 絶対値を含む式を、場合分けをして、絶対値をはずした式で表すことができる。 - 無理数の加法及び減法、乗法公式などを利用した計算ができる。また、分母だけが二項である無理数の分母の有理化ができる。 - 分母と分子がともに二項である無理数の分母の有理化ができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(1) 数と式	数学 I 2 (1) ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。
与えられた二つの集合について、共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(1) 数と式	数学 I 2 (1) ア 数と集合 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>二次の乗法公式及び因数分解の公式が活用</u>できる。	【設問数】 1 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式 サンプル問題 1 (1)	(1) 数と式	数学 I 2 (1) イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。
・ <u>式の置き換えや一つの文字に着目する</u>などして、<u>展開・因数分解</u>ができる。			
・ 不等式の解の意味を理解するとともに、<u>不等式の性質</u>を利用して、<u>一次不等式や連立不等式を解く</u>ことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(1) 数と式	数学 I 2 (1) イ 式 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。
・ 絶対値の定義を理解し、<u>絶対値を含む方程式及び一次不等式を解く</u>ことができる。			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
三角比の相互関係を理解し、<u>一つの三角比の値から残りの三角比の値を求める</u>ことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式 サンプル問題 1 (2)	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。 (イ) 鈍角の三角比 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めること。
<u>対称軸 (直線 $x=p$) や頂点 (p, q) に着目して二次関数のグラフの特徴を捉える</u>ことができる。	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。
<u>与えられた条件から、二次関数の式を求める</u>ことができる。			
二次関数のグラフから頂点又は軸を境として、関数の値の増減が変化することを理解し、<u>二次関数の最大や最小を求める</u>ことができる。(閉区間を含む。)	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
二次関数のグラフとx軸との位置関係により、二次不等式の解の意味を理解し、<u>二次関数のグラフを活用して、x軸との共有点が2個である場合の二次不等式について解くことができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。
〔数学 A〕			
- さまざまな問題を解決する場合、<u>ベン図を用いるなどして集合の要素の個数を効率よく数えることができる。</u> <u>和の法則・積の法則を用いて、効率よく数えることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) ア 場合の数 (ア) 数え上げの原則 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則について理解すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>順列や組合せを用いて具体的な事象の場合の数を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式 サンプル問題 1 (3)	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) ア 場合の数 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めること。
・ <u>確率の基本性質を用いて具体的な事象の確率を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) イ 確率 (ア) 確率とその基本的な法則 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めること。また、確率を事象の考察に活用すること。
・独立な試行の意味を理解し、 <u>独立な試行の確率を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) イ 確率 (イ) 独立な試行と確率 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めること。また、それを事象の考察に活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>素因数分解を利用して最大公約数や最小公倍数を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(2) 整数の性質	数学 A 2 (2) ア 約数と倍数 素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現すること。
・ <u>2 元 1 次不定方程式を、さまざまな方法で解くことができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(2) 整数の性質	数学 A 2 (2) イ ユークリッドの互除法 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求めること。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求めること。
・ <u>n 進法で表記されている数の仕組みを理解し、n 進法の整数を 10 進法で表したり、10 進法の整数を n 進法で表したりすることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問 (程度) 【出題形式】 短答式	(2) 整数の性質	数学 A 2 (2) ウ 整数の性質の活用 二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用すること。
・ <u>循環小数を分数を用いて表すことができる。</u>			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>三角形の重心，外心，内心の性質を利用して，線分の長さを求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式	(3) 図形の性質	数学 A 2 (3) ア 平面図形 (ア) 三角形の性質 三角形に関する基本的な性質について，それらが成り立つことを証明すること。
・ <u>チェバの定理，メネラウスの定理を用いて，線分の長さや比を求めることができる。</u>			
・ <u>円に内接する四角形の性質を用いて，角度を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式	(3) 図形の性質	数学 A 2 (3) ア 平面図形 (イ) 円の性質 円に関する基本的な性質について，それらが成り立つことを証明すること。
・ <u>接線と弦のつくる角の性質を用いて，角度を求めることができる。</u>			
・ <u>方べきの定理を用いて，線分の長さを求めることができる。</u>			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
【2次：数理技能検定】 〔義務教育段階の数学〕			
・ <u>数の平方根を含む式の四則計算</u> ができる。	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A（1） イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
・ <u>具体的な場面で、正の数の平方根を用いて表したり処理したりすること</u> ができる。	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A（1） ウ 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。
・ <u>数量及び数量の関係を、文字を用いた式で表すこと</u> ができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A（2） ウ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明すること。
・ <u>数や図形の性質などが成り立つことを、数量及び数量の関係を捉え、方針を明らかにして、文字を用いた式で説明すること</u> ができる。			
・ <u>問題の中の数量やその関係を文字を用いた式で表し、それを基にしてつくった二次方程式を解くこと</u> ができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A（3） エ 二次方程式を具体的な場面で活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>見いだした図形の性質などを，三角形の相似条件を用いて証明することができる。</u> ・ <u>相似な三角形の対応する辺の長さを求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B（1） イ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。
・ <u>平行線と線分の比についての性質を，平行線の性質や三角形の相似条件を用いて証明することができる。</u> ・ <u>平行線と線分の比についての性質を用いて，線分の長さなどを求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B（1） ウ 平行線と線分の比についての性質を見だし，それらを確かめること。
・ <u>ある図形の面積や体積が分かっているとき，その図形と相似な図形の面積や体積を相似比を基にして求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B（1） エ 基本的な立体の相似の意味と，相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。
・ <u>図形の辺の比の関係を求めたり，直接測定できない高さや距離などを縮図をかくて求めたりすることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B（1） オ 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>円周角と中心角の関係を</u> 用いて、 <u>角の大きさを求める</u> ことができる。	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (2) ア 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知ること。
・ <u>直角を使って円の中心を求め</u> られることを、証明できる。	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (2) イ 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。
・ <u>三平方の定理を用いて、直角三角形の辺の長さなどを求める</u> ことができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (3) ア 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。
・ <u>三平方の定理の逆を用いて、ある三角形が直角三角形であるかどうかを見分ける</u> ことができる。			
・ <u>座標平面における 2 点間の距離や円錐の高さなどを求める</u> など、 <u>平面図形や空間図形の計量</u> ができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (3) イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・関数 $y=ax^2$ の関係を表、式、 <u>グラフで表すことができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	C 関数	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 C (1) イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
・具体的な事象の中にある、関 数 $y=ax^2$ の関係を表、式、 <u>グ ラフを用いて表現したり、処 理したりすることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	C 関数	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 C (1) ウ 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。
・標本調査を行い、 <u>問題を解決 する手順を理解している。</u>	【設問数】 0 から 1 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	D 資料の活用	中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 D (1) イ 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
〔数学Ⅰ〕			
・ <u>無理数の加法及び減法、乗法公式などを利用した計算</u>ができる。また、<u>分母だけが二項である無理数の分母の有理化</u>ができる。 ・ <u>分母と分子がともに二項である無理数の分母の有理化</u>ができる。 ・ <u>分母が三項である無理数の分母の有理化</u>ができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 数と式	数学Ⅰ 2 (1) ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。
・ 命題、条件の否定、命題の逆・裏・対偶などの基本事項を理解し、集合（真理集合）を用いて、<u>命題の真偽が判断</u>できる。また、<u>真であることの証明をしたり、偽であるときの反例をあげたりする</u>ことができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 数と式	数学Ⅰ 2 (1) ア 数と集合 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>式の置き換え</u>や<u>一つの文字に着目する</u>などして、<u>複雑な式を簡単な式に帰着</u>させ、<u>展開・因数分解</u>できる。また、<u>対称式の式変形</u>ができる。	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 数と式	数学 I 2 (1) イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。
・ <u>場合分け</u>を利用し、<u>絶対値を含む方程式及び一次不等式を解く</u>ことができる。	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 数と式	数学 I 2 (1) イ 式 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 鋭角の三角比の定義を理解し、<u>三角比を活用して、身近なものの長さ（高さ、距離等）や角度を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。 (イ) 鈍角の三角比 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めること。
・ <u>$90^\circ - \theta$ の三角比について理解し、適切に活用できる。</u>			
・ <u>三角比を含む対称式・交代式の値を求めることができる。</u>			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>三角形の辺と角の間に成り立つ基本的な関係</u>として正弦定理及び余弦定理を理解し、<u>正弦定理や余弦定理を利用して、辺の長さを求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。
・ <u>三角形の外接円の半径とその三角形の三角比との関係</u>を考察し、正弦定理を理解するとともに、<u>正弦定理や余弦定理を利用して、辺の長さや角の大きさを求めることができる。</u>			
・ <u>三角比を利用して、三角形の面積を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。
・ <u>三角比を活用して、平面図形の計量に利用することができる。</u>			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>与えられた条件から、二次関数の式を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。
・ 二次関数のグラフを活用して、 <u>制限された区間 (開区間も含む。)</u> における <u>二次関数の最大や最小を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
二次関数のグラフとx軸との共有点のx座標は二次方程式の解であることを理解し、x軸との共有点のx座標を求めることができる。	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式 サンプル問題 2	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。
二次関数のグラフとx軸との位置関係を、二次方程式の判別式Dを活用し、共有点の個数を求めることができる。			数学 II 2 (1) イ 高次方程式 (ア) 複素数と二次方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。また、二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解すること。
係数に文字が含まれる二次不等式について、二次関数のグラフなどを活用して解くことができる。			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・最小値、四分位数、最大値、四分位範囲、四分位偏差、分散、標準偏差等の用語について理解するとともに、<u>データから最小値、第1四分位数、第2四分位数(中央値)、第3四分位数、最大値を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(4) データの分析	数学 I 2 (4) ア データの散らばり 四分位偏差、分散及び標準偏差等の意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。
〔数学 A〕			
・さまざまな問題を解決する場合、<u>ベン図を用いることで、いろいろな集合の要素の個数を効率よく数えることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) ア 場合の数 (ア) 数え上げの原則 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>順列，階乗，組合せの公式を用いて，さまざまな問題を解くことができる。</u> ・ <u>${}_nP_r$，${}_nC_r$の性質を用いて，さまざまな問題を解くことができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) ア 場合の数 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し，それらの総数を求めること。
・ <u>確率の計算に集合の考えを活用したり，複雑な事象の確率を公式を用いて求めたりすることができる。</u> ・ <u>積事象，和事象，排反事象，余事象の考えを用いて確率を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) イ 確率 (ア) 確率とその基本的な法則 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率を求めること。また，確率を事象の考察に活用すること。
・ <u>独立な試行の確率を求めることができる。</u> ・ <u>複雑な反復試行の確率を，反復試行の公式や確率の加法定理を用いて求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(1) 場合の数と確率	数学 A 2 (1) イ 確率 (イ) 独立な試行と確率 独立な試行の意味を理解し，独立な試行の確率を求めること。また，それを事象の考察に活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・倍数を見分けることができる とともに、 <u>素因数分解</u> を利用 して <u>最大公約数</u> や <u>最小公倍数</u> を求めることができる。	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(2) 整数の性質	数学 A 2 (2) ア 約数と倍数 素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に 関連した事象を論理的に考察し表現すること。
・2 元 1 次不定方程式を、さ まざまな方法で解くことが できる。	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(2) 整数の性質	数学 A 2 (2) イ ユークリッドの互除法 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを 理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求めること。ま た、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合 についてその整数解を求めること。
・ n 進法で表記されている数の 仕組みを理解し、 <u>n 進法の整 数を 10 進法で表したり、10 進法の整数を n 進法で表し たりする</u> ことができる。	【設問数】 0 から 2 問 (程度) 【出題形式】 短答式及び記述式	(2) 整数の性質	数学 A 2 (2) ウ 整数の性質の活用 二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される 仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
• <u>平行線と比，中点連結定理，線分の内分と外分などの基本的な図形の性質を利用して，線分の長さを求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(3) 図形の性質	数学 A 2 (3) ア 平面図形 (ア) 三角形の性質 三角形に関する基本的な性質について，それらが成り立つことを証明すること。
• <u>三角形の重心，外心，内心の性質を利用して，線分の長さを求めることができる。</u>			
• <u>チェバの定理，メネラウスの定理を用いて，線分の長さや比を求めることができる。</u>			
• <u>円に内接する四角形の性質を用いて，角度を求めることができる。</u>	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式及び記述式	(3) 図形の性質	数学 A 2 (3) ア 平面図形 (イ) 円の性質 円に関する基本的な性質について，それらが成り立つことを証明すること。
• <u>接線と弦のつくる角の性質を用いて，角度を求めることができる。</u>			
• <u>方べきの定理を用いて，線分の長さを求めることができる。</u>			

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・線分の垂直二等分線，垂線， 角の二等分線，円外の点から 引いた接線などの作図の方 法を理解し，応用すること ができる。	【設問数】 0 から 2 問（程度） 【出題形式】 短答式	(3) 図 形 の 性 質	数学 A 2 (3) ア 平面図形 (ウ) 作図 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用する こと。

(様式5)

サンプル問題について

事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名:実用数学技能検定 準2級

対象教科:数学

測定内容の区分:標準レベル

サンプル問題番号(大問番号):1

出題科目	数学 I													
出題のポイント	一つの文字に着目するなどして、因数分解できるかをみる。													
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>1</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		1	○				
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等												
1	○													
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	1		○			
小問番号	選択式	短答式	記述式											
1		○												
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く					
小問番号	聞く	読む	話す	書く										
サンプル問題	(1) 次の式を因数分解しなさい。 $xy + 3x + 2y + 6$													
解答例	$(x + 2)(y + 3)$													
(参考) 学習指導要領の関連項目	数学 I 2 内容 (1) 数と式 イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。													

事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名:実用数学技能検定 準2級

対象教科:数学

測定内容の区分:標準レベル

サンプル問題番号(大問番号):1

出題科目	数学 I															
出題のポイント	三角比の相互関係を理解し、一つの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができるかをみる。															
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>1</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>2</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		1	○			2	○		
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等														
1	○															
2	○															
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	1		○		2		○	
小問番号	選択式	短答式	記述式													
1		○														
2		○														
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く							
小問番号	聞く	読む	話す	書く												
サンプル問題	(2) $0^{\circ} < \theta < 90^{\circ}$ で $\sin \theta = \frac{3}{4}$ のとき、次の問いに答えなさい。 ① $\cos \theta$ の値を求めなさい。 ② $\tan \theta$ の値を求めなさい。															
解答例	① $\frac{\sqrt{7}}{4}$ ② $\frac{3\sqrt{7}}{7}$															
(参考) 学習指導要領の関連項目	数学 I 2 内容 (2) 図形の計量 ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。															

事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名:実用数学技能検定 準2級

対象教科:数学

測定内容の区分:標準レベル

サンプル問題番号(大問番号):1

出題科目	数学A															
出題のポイント	順列を用いて具体的な事象の場合の数を求めることができるかをみる。															
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>1</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>2</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		1	○			2	○		
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等														
1	○															
2	○															
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	1		○		2		○	
小問番号	選択式	短答式	記述式													
1		○														
2		○														
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く							
小問番号	聞く	読む	話す	書く												
サンプル問題	(3) 男子4人、女子2人の合わせて6人が横1列に並ぶとき、次の問いに答えなさい。 ① 並び方は全部で何通りありますか。 ② 女子2人が隣り合う並び方は、全部で何通りありますか。															
解答例	① 720通り ② 240通り															
(参考) 学習指導要領の関連項目	数学A 2 内容 (1) 場合の数と確率 ア 場合の数 (イ) 順列・組合せ 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めること。															

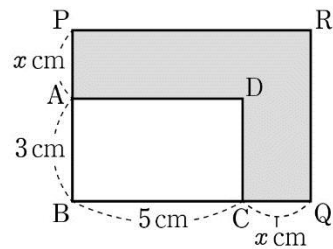
事業者名:公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名:実用数学技能検定 準2級

対象教科:数学

測定内容の区分:標準レベル

サンプル問題番号(大問番号):2

出題科目	数学 I															
出題のポイント	具体的な事象を文字式で表すことができるか、できた式をもとに（二次）不等式をつくって解き、解の範囲を正しく求めることができるかをみる。															
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		1		○		2		○	
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等														
1		○														
2		○														
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	1		○		2			○
小問番号	選択式	短答式	記述式													
1		○														
2			○													
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く							
小問番号	聞く	読む	話す	書く												
サンプル問題	長方形ABCDにおいて AB = 3 cm, BC = 5 cm とします。右の図のように、長方形ABCDの縦と横をそれぞれ x cm のばして長方形PBQRをつくるとき、面積の増分(色を塗った部分の面積)を S cm² として、次の問いに答えなさい。ただし、$x > 0$ とします。 (1) S を x を用いて表しなさい。この問題は答えだけを書いてください。 (2) $S \geq 15$ のとき、x のとり得る値の範囲を求めなさい。 															
解答例	(1) $S = x^2 + 8x$ (2) $x^2 + 8x \geq 15$ より $x^2 + 8x - 15 \geq 0 \cdots \textcircled{1}$ $x^2 + 8x - 15 = 0$ を解くと $x = -4 \pm \sqrt{31}$ よって、$\textcircled{1}$ の解は $x \leq -4 - \sqrt{31}, -4 + \sqrt{31} \leq x$ このうち $x > 0$ を満たすのは $-4 + \sqrt{31} \leq x$ (答) $x \geq \sqrt{31} - 4$ 正答条件 (2) ①問題文に合わせて2次不等式をつくる。 ②2次不等式を解く。 ③定義域に合わせて解を吟味する。															
(参考) 学習指導要領の関連項目	数学 I 2 内容 (3) 二次関数 イ 二次関数の値の変化 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。															